

令和4年度 幼保小連携推進地区事業 西富岡地区活動報告



西富岡地区
西富岡小学校 京急幼稚園 きらら保育園

◆西富岡地区推進テーマ

子どもの育ちと学びをつなぐ交流と連携
～幼保の「学び」を生かしたカリキュラム・マネジメント～

- ▶ 子どもの育ちや学びを生かした実践交流
- ▶ 幼保小保育士・教職員の情報交換
- ▶ 接続期カリキュラムの実践と修正・改善

◆テーマ設定理由と期待する効果

幼稚園・保育園から小学校に入学する就学移行期は、子どもたちにとって新しい環境である学校・学級に適応する重要な時期である。今年度はスタートカリキュラムを教育課程に位置付け、幼稚園・保育園から小学校へのなめらかな接続を図る手立ての一つとする。また、職員間の交流を深め、連携することで、幼保の学びを生かした学校生活にしていきたい。そのためには、まず幼保小が互いに実践を知り、教職員が相互に授業や保育を行うことで、発達の段階にふさわしい指導や支援のあり方を探る。さらに年長児と1年生が交流をすることで、1年生児童の企画・実践力の向上や異年齢の交流で生まれる自己有用感にも期待したい。幼保小の取組を進めることで、他者に対する理解や思いやりを育て、豊かな情操を育みたいと考えている。

◆令和4年度の取組から



◆スタートカリキュラム

- ▶ 本校では1年生が4～5月にかけて取り組んでいる。
- ▶ なかよしタイムでは、子どもたちが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことができるように、園で経験していた手遊びや読み聞かせ、ダンスなどを取り入れた。

また、教室や校庭での遊びなど、自由に遊ぶ場と時間を保障することで、子どもたちの心が徐々にほぐれ、安心して自己発揮したり、新しい友達とかかわったりする姿が見られた。



▶ わくわくタイムでは、発達段階に合わせ、活動や体験を通して学ぶ生活科を中心に、他教科等との関連を図りながら進めた。

「がっこうたんけん」では、子どもたちが何に興味をもっているのかをていねいに見とるようにした。クラスの実態により、授業をする順番を変えたり、活動時間が多く取れるように2時間続きで行ったりした。臨機応変に予定を変更することにより、子どもたちの学ぶ意欲を高めたり、活動に没頭したりすることができるよう配慮した。



▶ ぐんぐんタイムでは、教科学習への関心や意欲がもてるように、段階的に行った。

算数の「なかまづくりとかず」では、学校探検で見つけたものの具体物を数える活動を取り入れた。学校生活をきっかけにし、いくつかの動作を伴う数学的活動を通して、遊びながら自然と算数の世界に入り、数の構成に着目しながら学習ができるような手立てをとった。



◆ 1年生授業参観



▶ 西富岡小学校の授業参観

土曜参観日に併せて、学校運営協議会を開催。京急幼稚園、きらら保育園の園長にも参加し、1年生を中心に授業参観を行った。後半の協議会では、子どもたちの様子や、タブレット端末を活用した授業実践などについて感想を交流した。



▶ 学校運営協議会の様子



◆幼保小職員研修

子どもたちへ昔話を手渡そう

～「昔話の楽しさ」を伝える読み聞かせのコツ～



東京都荒川区教育委員会学校図書館支援室の阿部ひろみ先生をお招きして、読み聞かせに関する幼保小の職員研修を行った。

研修では、絵本や読み聞かせが子どもの成長にどのような役割を担うのかを学んだ。その後は保育園や幼稚園、小学校の保育士・教師が混ざったグループで朗読の実技研修をしたり、グループごとに発表会をしたりした。

研修の最後には、講師の阿部先生に読み聞かせを実演していただき、読み聞かせの魅力にたっぷり浸ることができた。



研修に参加した職員の感想



読み聞かせは、幼児期から小学校3年生までが旬であると知り、まさに幼保小の接続期の子どもたちにとっても大切であることを再認識しました。ビデオやゲームなど、視覚優位の環境の中で生活しているからこそ、聴覚を育て、「耳で言葉をとらえ、イメージを広げる力を育む必要があることを学びました。

阿部先生による読み聞かせの実演は、聞いていてとても心地よく、いつまでもずっと聞いていたいという気持ちになりました。今までは絵本を読み聞かせるときには、あまり考えずに読んでいましたが、今日の研修を受けたら、もっと読み聞かせが上手になりたいと思うようになりました。子どもたちがもっと読み聞かせの世界に浸ることができるよう、読み聞かせの練習をしていきたいです。

◆遊び交流



▶ 京急幼稚園、きらら保育園の園児と、西富岡小学校の校庭で年3回の遊び交流

定期的に園児と1年生とで遊び交流を行う計画を立てた。交流を通して、1年生は自分自身の成長に気づいたり、周りを見てかかわったりすることができた。自分よりも年下の子どもたちとのかかわりを通して、自己有用感を感じることができた。

◆運動会参観



▶ 京急幼稚園、きらら保育園、西富岡小学校、相互に運動会参観交流を計画

今年度は感染症対策等のため、きらら保育園の園児が1年生の運動会練習の参観をするにとどまった。西富岡小学校教員が京急幼稚園、きらら保育園の運動会や練習の様子を参観して交流を行った。

◆いもほり交流



▶ きらら保育園のいもほりに参加

きらら保育園の畑に園児たちが植えたサツマイモの収穫を、西富岡小学校1年生が手伝った。ほるだけでなく、いも洗いやツルの処理なども手伝うことができ、「園児たちではできないことをすることができた。」「手伝ってほめてもらえた。」など喜んで参加することができた。



◆球根うえ



▶ 共通体験として、園児・児童が一人一鉢の球根うえ

入学後に「こんなことがあったよね。」と1、2年生での交流につながるように、共通体験として揃いの鉢にチューリップの球根を植える体験をした。園児・児童が一緒に鉢に自分マークや絵を描き、ときには1年生が年長児を手伝いながら、どの子も大切に自分の球根を植えた。

◆作品展交流

小学校の校内作品展に、京急幼稚園の園児にも出展してもらった。



- ▶ 京急幼稚園の体操服や、国の旗が正しくかいてあって分かりやすいです。バトンをわたしているときに二人とも笑顔で楽しかったんだなと思いました。
(6年生児童)
- ▶ ピンクの色がぬってあって、一人ずつ水色、ピンクなど細かく色がぬれていました。国旗も一つひとついねいで素敵だなと思いました。
(6年生児童)

◆今年度の成果と課題

- ▶ スタートカリキュラムでは、時間の取り方や教室環境、園で読んできた本や遊びなどをとり入れ、それぞれの園での経験を共有化することで、幼保のなめらかな接続を図ることができた。
- ▶ 教職員が授業や運動会の参観、研修会などを通して、情報交換したり、お互いの教育環境、活動を理解したりすることができた。
- ▶ 「読み聞かせ」という幼保小どこでも共通で行っている活動の研修を行うことで、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの参考にすることができた。
- ▶ コロナ禍のため、予定していたができなかった活動もあった。また、打ち合わせの時間がなかなか取れず、オンラインミーティングとなった。
- ▶ スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムの接続について考えていく必要がある。

◆2年めに向けて

- ▶ 子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実
- ▶ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとした接続カリキュラムの具現化
- ▶ 今年度実現できなかった活動やさらなる交流の充実
- ▶ 年長から1年生までの架け橋プログラムについての理解を深める